

まえがき

ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム (Software Engineering Symposium: SES) は、情報処理学会ソフトウェア工学研究会が主催するフラグシップイベントとして 2006 年から毎年 1 回開催されており、2017 年で 12 回目を迎える。同時に、本年はソフトウェア工学研究会が設立されてから 40 年になるため、40 周年記念イベントも兼ねている。今回は、早稲田大学グリーンコンピューティングシステム研究開発センターにおいて、2017 年 8 月 30 日から 9 月 1 日までの 3 日間にわたり開催される。

ソフトウェア工学は総合的かつ実践的な学問分野であるため、基礎技術の研究と技術の実践を独立して実施しては十分な成果や発展は望めない。ソフトウェア開発現場の実態を常に意識しつつ、理論に基づくソフトウェア開発の基本原則と過去の事例研究に基づく実証経験を突き合わせることは必須である。このことより、研究者・実務者が密に連携する重要性はこれまで以上に高くなっている。

さらには、社会におけるソフトウェアの重要性はますます高くなっており、ソフトウェア的な視点から社会基盤やビジネスを設計する機会も確実に増加している。ソフトウェアが社会におけるあらゆるものを定義する時代が到来しつつあるといっても過言でない。また、人工知能、ビッグデータ、IoT などの技術の発展がソフトウェア開発や保守にも多大な影響を与えはじめている。このような状況を踏まえ、ソフトウェア工学の広がりを見つめ直し、今後の発展も含めたソフトウェア工学の再構築も必要であろう。

このような観点から、SES2017 では、ソフトウェア工学に関係する多様な技術分野に関して産学の研究者・技術者・実務者間で活発な議論をできる場を提供することを目的として、研究論文と実践論文の 2 つのカテゴリでシンポジウム論文を募集した。研究論文はこれまでと同様に独創的な研究の成果を発表するもので新規性／独創性、有用性、正確さが重視される。これに対して、実践論文は、ソフトウェア工学の実践事例や経験から得られた知見を発表するものであり、事例や知見としての有用性、正確さが重視される。実践論文には、研究成果を企業で実適用した事例の報告など、産学連携の取り組みの経験も含まれる。また、SES2017 では、新たな取り組みとして、研究アイデア論文を募集した。これは、国際会議や論文誌への投稿を予定している研究成果や、研究の初期段階における新しい方向性や独創的なアイデアなどを発表する場を提供することを目的としている。

研究論文はフルペーパー投稿が 20 件とショートペーパー投稿が 3 件であった。実践論文は、フルペーパー投稿が 3 件とショートペーパー投稿が 1 件であった。シンポジウム論文に対しては、3 名のプログラム委員による並列査読を行い、その結果をプログラム委員会にて慎重に議論した結果、8 件の研究論文フルペーパー、1 件の実践論文フルペーパー、12 件の研究論文ショートペーパー、3 件の実践論文ショートペーパーを採択した。研究アイデア論文については 4 件の投稿があり、すべての論文に発表の場を提供することになっている。

本シンポジウムでは、これらの論文発表に加え、基調講演に、大阪大学大学院情報科学研究科教授/産業技術総合研究所情報技術研究部門特定フェローの井上克郎氏と、ドワンゴ 人工知能研究所所長/全脳アーキテクチャ・イニシアティブ代表の山川宏氏をお迎えした。井上氏にはソフトウェア工学に関する姿勢や展望、山川氏には人工知能ソフトウェアの普及と影響に関してご講演いただくことになっている。また、ソフトウェア工学と人工知能とのかかわりをテーマとするパネル討論、2016 年度から設置されたソフトウェア工学研究会卓越研究賞に関する論文紹介の講演を開催する。さらに、40 周年記念イベントとして、国際トラック (Special International Track) を設置した。ここでは、Andrea Mocci 氏と Raula Gaikovina Kula 氏にご講演いただき、英語での討論を展開する。

ポスター展示に関する投稿は 2016 年度に引き続き盛況であり、22 件 (論文あり 6 件と論文なし 16 件) が

採択された。ワークショップに関しては、昨年に引き続きテーマを設定した議論の場として討論テーマを公募し、4件のワークショップを開催することになっている。

基調講演，論文発表，パネル討論，特別講演，国際トラック，ポスター展示，ワークショップなど，多種多様な場での活発な議論を通して，研究者，技術者，実務者の交流がますます盛んになり，今後の研究や実践において密に連携していくきっかけが生まれることを強く期待する。

最後に，情報処理学会ソフトウェア工学研究会運営委員，情報処理学会事務局，本シンポジウムの企画，論文査読，その他さまざまな準備作業に関わってこられた，各委員長，プログラム委員，ワークショップ討論リーダーをはじめとする皆様に深く感謝する。

SES2017 プログラム委員長	野中 誠
SES2017 副プログラム委員長	石尾 隆
SES2017 実行委員長	丸山 勝久